急性中耳炎検出菌の季節的推移

杉田　麟也・河村　正三・市川　銀一郎
藤巻　豊*・出口　浩一**

目的：一般病院における急性中耳炎検出菌の傾向とその季節的な特徴を検討した．

対象：1979年7月から1980年6月末日まで東京都江東区医療法人江東病院耳鼻科を受診した急性中耳炎患者586名である．

方法：初診時に鼓膜切開または外耳道に流出していた耳漏を滅菌綿棒で採取した．検体はTCSブロス滅菌試験管に入れ保管し，当日，東京総合臨床検査センターで細菌検査を実施した．

結果：①鼓膜切開406例，425株であつた．検出率が高いのは肺炎球菌50％，インフルエンザ菌32％，溶連菌7.5％，黄色ブ菌6％，緑膿菌2％などであつた．②耳漏は168例，221株であり，肺炎球菌26.2％，インフルエンザ菌24％，溶連菌14％，黄色ブ菌21.3％，緑膿菌7.0％などであつた．③検出菌を季節的に検討した．肺炎球菌は春，インフルエンザ菌は冬に，緑膿菌は夏に検出されやすく，いずれも統計的に有意差を確認した．

考察：検体の採取方法により，菌検出率に大きな差がみられた．肺炎球菌，インフルエンザ菌は鼓膜切開例に多く，黄色ブ菌，緑膿菌は耳漏症例に多く検出された．

インフルエンザ菌が冬に多いのは"風邪"の流行との関係が考えられた．また，緑膿菌が夏に多いのは水泳や発汗の影響があると考察した．

質疑応答

岩沢（札幌逓信）　①混合感染はどの程度か．

②上気道感染症を含めての併発症の割合はいかが．

杉田（順天堂大）　1)混合感染は7％でみられた．2種5.8％，3種1.2％，4種0.3％であつた．

2)患者の多くは"風邪"をひいたという病歴を有していた．鼻内所見は膿性鼻汁や後鼻漏を呈する者が多かつた．中耳腔と上咽頭の菌を比較すると大部分の症例で検出菌が一致した．

佐藤（金沢医大）　①滲出性中耳炎は除外されていますか？念のため．

②7～8月に緑膿菌が多くなることについてのコメントを．

杉田　1)浸出性中耳炎はふくまれていない．

2)緑膿菌は夏にみられ，水泳後に中耳炎を発症した症例が多かつた．

過去10年間の慢性中耳炎検出菌について

福田　正弘・河村　正三・市川　銀一郎
杉田　麟也・田中　幹雄・後藤　重雄
藤巻　豊・大谷　美弥子†

順大付属病院耳鼻科外来患者を対象に，過去10年間の慢性中耳炎症例からの検出菌について，その変化がないかどうか検討した．

細菌培養は，順大中検で行い，全例好気および嫌気培養を実施した．

結果は以下のごとくであつた．

* 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科学教室
** 東京総合臨床検査センター
† 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科学教室